

町内会・自治会等ヒアリング（1回目）  
地域の資源・課題編 結果概要  
乙部地域

※主な意見等を抜粋しています。また、同種の内容はまとめて記載しています。

「問1」については、各町内会等が主に属する地域の【地域別構想】をご覧ください、平成21年度の見直し時から約10年が経過したことを踏まえ、記載されている内容について、この約10年間で感じる地域の課題や変化、意見等についてお聞きしました。

①『地域の好きなところ』について

- 異常気象による災害がなく温暖な環境である。
- 自然豊かであるが近所に商店街があり生活に適している。
- 自然豊か、大災害が少ない。
- 自然に恵まれ山なみがきれいである。
- 乙部川をはじめ小さな川にも鮭が上り心豊かになる。
- 各林道に春、夏、秋それぞれスミレ等の花が咲き誇り心が癒される。
- 各地（他市町）の花火打ち上げが観られる。
- 散策する場所が多い。
- 前回の内容と変化がないものと思われます。
- 全体的に静かで落ち着いた環境である。
- 小、中学校と地域のつながりが深い。

②『地域の課題』について

- 高齢化により自治会の継続に課題がある。
- 空き家対策。
- 地区民に対して公共的事業の経過等の情報が一部の組織、役員から発信されていないことがある（館長になってから知ることが多い）。
- 小さな団地のなかを大型の車が通る。
- 旧一部住民による排他的な傾向が強い。
- 高齢化が進んでいるが高齢者の集まりの参加者が少ないのでは。
- 若者が集うような施設がまったくない（野球場の代わりに施設はどこにいったのか）。
- 矢幅駅との連絡バスが少なく通勤に不便。利便性がない。岩手医科大に通えないことも。
- 登下校（中学校）時間、買い物時間帯の交通渋滞。
- 外国人の流入（白石食品か）、ゴミ捨て等生活面のトラブルあり。雇用者がある程度教育、指導をしていただきたい。
- 岩手医科大の矢巾町進出のため朝夕の交通量の増加。
- インフラ整備（下水道）普及のスピードが遅い。
- 少子化。
- ごみの分別が守られない。
- 車がないと生活が不便（公共交通の不足）。

### ③『地域の資源・課題マップ』について

※この欄に記入又は別紙のマップに直接御記入ください。(両方を併用しても構いません。)

- さまざまな生物が育つ環境⇒害獣対策が必要。
- 使用されていない古い建物（民家、工場）がある。
- 乙部川に散策路を整備（大ケ生まで）して、鮭等の遡上、春、夏、秋の花、紅葉を楽しむことができ、他地域からも観に来られるように駐車場の整備もすること。
- 地域マップを他市町村に配布すること。
- 須田橋架け替え工事中。
- 生活用道路整備の遅れ。
- 下水道計画がなされていますが早急を実施してほしい（整備の遅れ）。

### ④その他

- 予算上となるでしょうが道路（車道、歩道）の補修ができていない（市道、県道）。穴、亀裂、のり面の崩れ等。
- 地域のまちづくり活性化に向けて机上論から現場論にシフトし職員自ら住んでいる自治会の役員を体験する必要があるのでは。
- 乙部地区内の道路の劣化が多く修繕で乗り切っている状況。
- 団地に他者の会社も入っているので道路、側溝の水の流れ等大きな問題とはなっていないが改善できない現状。
- 市街化調整区域を撤廃して若者たちが新築できるように。アパート等を建てやすくすること（岩手医科大等、徳田橋の改良により交通の便がよくなることによる矢巾への買い物もよくなる人口増が望める）。

「問2」については、まちづくり全般に関する意見についてお聞きしました。

- 農地の転用を可能にしてはどうか（離農者の増加）。
- 公共施設が少ない。病院、商店が少ない。バス利用の本数及び時間帯が合わないため結局マイカー出勤や買い物、用事足しになった。
- 農地が多い地域のメリットを活かし、玉山のように「乙部道の駅」を設置し、特製販売（おみやげ用を含む）。地域同士のコミュニケーションが疲弊、若者世代が地域活動に参加しない。
- 地域の協働まちづくりの成功例等をプロの講師を呼んで研修会を開催してほしい。
- 老人は認知症につながる傾向が多い。便利さもよいが自然環境を考えてほしい。
- 若者が集う運動施設の新設、高齢者のためバスの本数を増やすことと矢幅駅までの利便性を高めること（今後、恒例により運転免許の返納が増えることにより足の確保が必要。遅くまでの運行も）。
- 地域内でコンパクトに生活ができれば結構です（金融機関、病院、役所等）。
- 子育て世代が集まることのできる場所が不足していると感じる。
- 自然が豊富で他の地域よりも静かで落ち着いた環境、岩手医科大にも近いなどの利点が活かされていない。小学生の数も年々減少傾向にあり高齢化した地域になってきている。
- 代表へのヒアリングではなく総会時期などに合わせてヒアリングをしたほうが多くの意見を聴けるのでは。

町内会・自治会等ヒアリング（2回目）  
まちづくりの方向性と基本方針編 結果概要  
乙部地域

※主な意見等を抜粋しています。また、同種の内容はまとめて記載しています。

「問1」については、添付した地域の現状データや、1回目のヒアリングの結果概要及び各町内会等が主に属する地域の【地域別構想】を確認いただき、各項目への追加、修正点や今後の地域のまちづくりに関する意見等についてお聞きしました。

①『まちづくりの方向性』について

- 道の駅等の地域色（農業（リンゴ、野菜）、川魚の養殖）を活かした経済の活性化への構築。
- 堤防を活用した道路整備は現状の利用以上は用途のうえで無理がある。
- 農業者（旧住民）と新住民の相互理解のためのコミュニティづくり。
- 方向性は書かれていることを進めればよいと思います。まずは身近なバスだと思えますが。

②『まちづくりの目標』について

- 公共施設が少ないことや次世代が県市外に流出するため、その方策を具体的に行政主導で仕事をしてほしい。
- 年齢層、職業によって安心して暮らせる環境は異なります。自然災害で生活環境が大きく変わります。増やすのではなく現在をしっかりとしたものにしてほしい。
- 地域として顕著な変化がみられませんのでこのままで結構ではないですか。

③『まちづくりの基本方針』について

- 自然と農業、コミュニティだけでは活性化が難しいと思う。地域に核をつくる必要性、共通認識、情報の周知。

④『まちづくりの方針マップ』について

- なし。

「問2」については、広く今後のまちづくりについて検討する必要があると感じることについてお聞きしました。

- 全国的に少子高齢化、経済の疲弊、コロナ対策の状況であるが、乙部地域においては田舎なので核が必要だと思う。